

る)。んで、そのうちに、ちょうど暑い時期だし、こんなチマチマ水を流してなくてよくね？みたいなことを考えたヤツ（たぶん複数いたはず）が水を掛けまくることを思いつき、だったら水鉄砲とか使った方が効率的じゃね？それもデッカイ水鉄砲の方がよくね？となってきたのだと思われる。その結果、タイ国中の人々（外国人も含む）が参加する壮大な水掛け合戦に発展(?)した次第。興奮しすぎて裸になったり街中なのにピキニで参加したりして逮捕される人もいるので、そこんこは品位を保ってね。

ところが、こんなノンキな記事を書いている一方で、新型コロナ・ウイルスの影響はタイ

にも及び、2020年（タイは仏暦なので2563年）はソクラーンの水掛けが中止されることになってしまった。普段の年であれば、水掛け合戦では人間は（普通は）死なないし、4月13日が終われば壮大な銃撃戦（水だけどね）も終息するのだが、新型コロナ・ウイルスは命に関わる場合もあるし、終息はまだまだ見えてこない。水掛け合戦で毎年にぎわう界隈が、今年は閑古鳥が鳴いていたというから、寂しい限りではある。この日が例年のような大騒ぎにならないように、警察を含む政府機関はかなり周到に準備と広報を行っていたし。今年はソクラーンが延期になって残念ではあるが、まずはこの状況を生き残り、新型コロナ・ウイルス禍が落ち着いてから、また楽しもう！

(この記事は、2020年4月13日に書きました。)



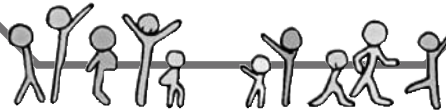
#### 今年のソクラーン中止ポスター

水を掛け合ったり、お出かけしたり、集まって騒いだり、じっちゃんばっちゃんのところに帰ったりするのは中止(งด)。「中止(งด) = 安全(ปลอดภัย)」。「もし中止しないと(ถ้าไม่งด) = ウイルスに感染(ติดเชื้อ) + 法に基づいて処理(ดำเนินการตามกฎหมาย)」されるぞ！(by 国家警察局情報部) なんかプレゼントみたいに描いてあるけど、コウエー・・・

### 夏の風物詩—カンヌ国際映画祭

国際コミュニケーション学部

永田 道弘



文化芸術の国フランスでは一年を通して様々なジャンルのフェスティバルがあります。特に初夏には多くのフェスティバルが開催され、夏のヴァカンスを目の前に人々の心が躍るこの季節の風物詩になっています。今回はそのなかでも世界的に有名なカンヌ国際映画祭を紹介します。例年、カンヌ映画祭は5月の半ばから約2週間、避暑地で有名な南フランスのカヌで開催されます。2020年は残念ながら新型コロナ・ウイルスの影響で通常の開催が断念されてしまい、映画祭を心待ちにしていた多くの映画ファンを落胆させることとなってしまいました。この夏の一大イベントが来年こそは開催されることを心から願ってやみません。

映画祭が開催されるカンヌは南フランスの地

地中海に面した海岸線コート・ダジュール (Côte d'Azur) にあります。イタリアとの国境近くにある人口7万人の地方都市です。目抜き通りのラ・クロワゼット通りには高級ホテルやブティックが立ち並び、典型的なリゾート地の雰囲気醸し出しています。夏には多くの観光客で賑わいます。

映画祭は1939年に計画が立てられましたが、第二次世界大戦が勃発したために延期となり、1946年に第1回が開催されています。このとき議長を務めたのが、映画の生みの親であるリュミエール兄弟の弟のルイでした。ルイ・リュミエールを登場させることで、フランスが映画発祥の地であることをアピールするねらいがあったといえます。それでは、なぜパリでなくカンヌで映画祭が開催されたのでしょうか？ 先ほども触れましたが、カンヌはフランスでも有数の避暑地であり、海岸線にそって高級ホテルが立ち並びます。実をいえば富裕層をターゲットとした国際的イベントをカンヌで開くことで高級リゾートの観光誘致を狙ったのがそもそものカンヌ映画祭の始まりでした。

世界にはカンヌのほかにも名の知れた国際的映画祭があります。そのうちでもイタリアのベネチアとドイツのベルリンで開かれる映画祭が有名です。カンヌ、ベネチア、ベルリンをあわせて世界三大映画祭とよびます。ベネチア映画祭は芸術性に重きをおき、ベルリン映画祭では政治的メッセージの強い作品が評価される傾向にあります。カンヌ映画祭では映画作家の芸術性が重んじられる一方で、「売れる」作品であることも無視できない要素としてあります。カンヌ映画祭はいわばプロモーション市場の顔も持っています。このようなカンヌ映画祭の「色」は、昨年度の作品賞 (パルム・ドール) を、名うてのヒットメーカーとして知られるポン・ジュノ監督の『パラサイト』が受賞したことにも表れていると思います。

日本映画もカンヌ映画祭でなかなかの健闘を

みせています。記憶が新しいところでは、2018年に是枝裕和監督の『万引き家族』がパルム・ドールを受賞したニュースが日本のメディアを賑わせました。これ以前にも、日本映画は4回、最高賞であるパルム・ドールを獲得しています。ちなみにパルム・ドール (palme d'or) は「金色のヤシ」を意味し、映画祭のマークにも描かれています。きっと近い将来、日本の監督や俳優が栄冠を勝ちとり、初夏の澄んだ青空の下、ヤシの木が整然と並ぶラ・クロワゼットを背景にインタビューにこたえる映像を目にする日が来ることでしょう。

## 未来を占う祭り イヴァン・クパラー (ロシア)

経済学部 清水 伸子



### 1. 焚火を飛び越え、運試し？

「さあ、今度は伸子の番！ 伸子！ 焚火を飛び越えて！」

「はあ?! (なにをいきなり)」

「飛び越えるんだよ！ 飛び越えるの！」

以前、8月にモスクワに行ったとき、ロシア人の友人の田舎にあるダーチャ (別荘) 近くの森の中でバーベキューをした時のことである。友人が用意してくれたシャシリクを焚火で焼いて食べた後、焚火を囲んでみんなでおしゃべりしてたら、友人が、突如、焚火に向かって助走をつけて走って来て、ひらりと焚火を飛び越えたのだ。そして、振り向きざまに私に言ったのが冒頭の言葉である。

焚火のほのおは、常時40強センチぐらいの高さまで、メラメラと燃え上がっていた。<服が燃えて穴開いたらどうするんだよ。>と固まっていると、その友人は容赦なく<ダヴァーイ！